

森林の整備・保全是、森林の健全化、公益的機能の確保に加え、資源劣化の要因である森林管理コスト低減にも貢献

- 路網密度による間伐経費の軽減

林道や作業道の整備は、作業現場へのアクセスの改善、伐採箇所から林道や土場までの集材距離の短縮など、林業生産コストを削減していく上での重要な手段である。

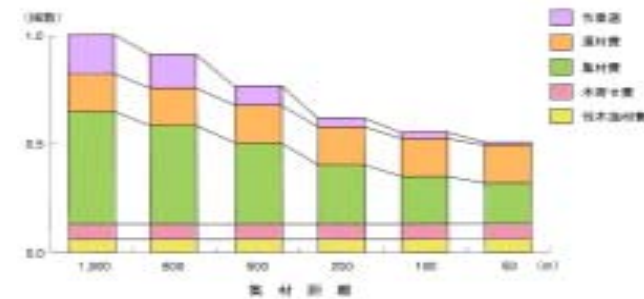
集材距離（伐採箇所から林道までの距離）と素材生産費の関係を試算すると、集材距離が1,000mから200mになれば、素材生産費が4割低減される。

- 単木材積の上昇による伐採・搬出の生産性向上

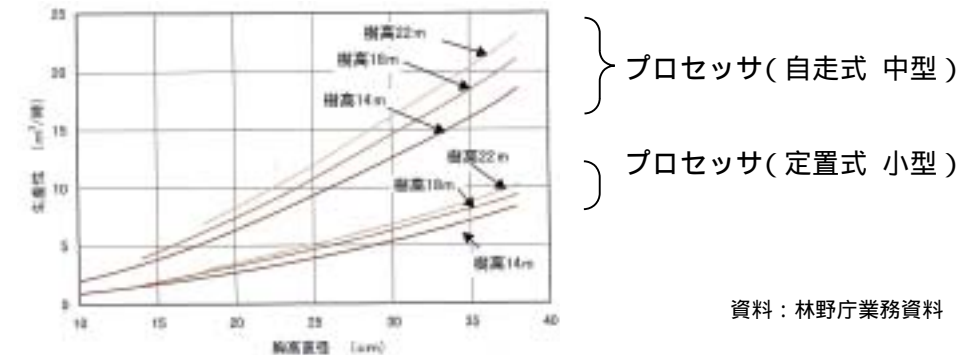
森林の密度管理を適正に行い、長伐期施業を実施すれば、胸高直径、単木材積ともに増大し、素材生産性は有利になる。  
 (千葉県のスギ 40年生 胸高直径16cm 樹高14m 材積0.15m<sup>3</sup>  
 80年生 胸高直径26cm 樹高23m 材積0.59m<sup>3</sup> )

自走式の中型プロセッサの調査例では、胸高直径が15cmから倍の30cmになると、生産性は5 m<sup>3</sup>/分から3倍の15 m<sup>3</sup>/分になるなど、生産性が上昇する。

集材距離と素材生産費指数



樹木の胸高直径と素材生産性



資料：林野庁業務資料